

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	嬉野市立嬉野中学校		
1 前年度 評価結果の概要	「まなび力」の視点から <input type="radio"/> 基礎・基本の定着 <input type="radio"/> 生徒主体の活動を多く取り入れた「学びの質」の向上 <input type="radio"/> 家庭学習の充実 「きずな力」の視点から <input type="radio"/> 「多様な価値観や違い」を認め、「自他の尊重」を行動として実行できる生徒の育成	「しぐさ力」の視点から <input type="radio"/> やるべきことをいつでもどこでも発揮できる「本物の力」の育成	<input type="radio"/> 普段の生活（基本的生活習慣）の充実

2 学校教育目標	夢に向かう颯爽とした生徒の育成 ～「嬉中まなび力」「嬉中しぐさ力」「嬉中きずな力」～		
----------	---	--	--

3 本年度の重点目標	1 学力の向上・・・「小中連携による学力向上推進地域指定事業」を活用した学力向上対策（西部型授業の徹底、学習規律・家庭学習の定着） 2 たくましさと自信の育成・・・家庭や地域連携を強化した、指導・評価・支援（基本的生活習慣の定着、不登校支援） 3 人権意識の向上・・・様々な価値観や違いを認め合う人間関係作り（人権・同和教育、道徳、学活等） 4 ICT利活用教育の推進		
------------	---	--	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	・西部型授業の徹底。 ・ICTを有効活用し、学びの質の向上を図る。	B	・西部型授業を行うことができている。これまでに2回の授業研究会を行い、そして年度末までに1人1回の公開授業も行っていく。 ・夏休みにタブレット端末使用に関する研修会を2回行い、今では一部の授業で活用できている。今後は、より有効な活用方法を探っていきたい。	A	・「授業はわかりやすい」と答えた生徒は93.8%であった。これは西部型授業を軸に、本校の課題解決に向け意図的・計画的に「書く活動」「話し合う活動」等を仕組んだ結果と考えられる。 ・ICTの利活用について、電子黒板は全ての教科・領域で活用されている。しかし、タブレット端末の活用は、ネットワーク環境の限界が一因となり、一部の授業のみであった。 ・マイプランの成果指標を達成した教師は83.0%であった。	A	・「授業はわかりやすい」と答えた生徒が93.8%いるのは、取組が成果をあげているからだと思う。	
	○学習意識向上・学習規律・家庭学習の定着	○毎日家庭学習のできる生徒90%以上 ○工夫して自主学習に取り組む生徒の数を70%以上	・自主学習について具体的な方策を提示する。 ・家庭での学習時間や生活リズムについて振り返らせる。	・自主学習については、具体例を提示して支援した。また、夏休みには自学コンテストに取り組んだ。継続して取り組む。 ・全学年生活記録表に取り組んでいる。この取組が自身の生活を振り返るきっかけになっている。今後は気になる生徒への声かけや励まし等、より効果的な指導を検討していく。	B	・12月の人権週間に合わせて、各学級で「人権スローガン」づくりを行った。各学級で真剣に話し合う姿が見られ、人権意識の高まりを感じた。 ・コロナ禍の中、生徒が地域に出ていき交流する行事はできなかったが、地域の方を学校に招き、サポーターとして授業や行事を支援していただき体験活動を行うことができた。豊かな心を身に付ける一助となった。	B	・習い事で帰りの遅い生徒等、夏休みに勉強をしている生徒もいるため、「毎日家庭学習をしている」生徒は74.4%であった。 ・自学ノートのまとめ方を参考にすることで、中身の充実につながり、「工夫して自主学習をしている」生徒は70.2%であった。	B	・学校評価では「B」判定になっているが、内容を見てみると習い事で帰りが遅い生徒が夏休みに勉強をして、それを補っているためだと思う。工夫して自主学習をしていると捉えていいのではないかと。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○人権・同和教育、道徳等を基本においた人権意識の向上 ○コミュニティ・スクールを活用した地域との連携の充実	・QUテストの考察を行い、人権の視点に立った授業や体験活動を行う。 ・コミュニティ・スクールを基盤とした地域行事への積極的参加を促す。	B	・夏季休業中にQUテストの考察を行った。職員で情報を共有しその後の指導に生かしている。また、道徳や学年集会等でも、思いやりをもった人との関わり方について指導を行った。継続して取り組む。 ・1年吉田焼絵付け体験や2年職場訪問、うれしガーデン定植など地域と連携することができた。コロナ禍の中、地域行事に参加する機会は少ないが、工夫をしさらに連携を深めていく。	A	・12月の人権週間に合わせて、各学級で「人権スローガン」づくりを行った。各学級で真剣に話し合う姿が見られ、人権意識の高まりを感じた。 ・コロナ禍の中、生徒が地域に出ていき交流する行事はできなかったが、地域の方を学校に招き、サポーターとして授業や行事を支援していただき体験活動を行うことができた。豊かな心を身に付ける一助となった。	A	・人権意識が高まりつつあり、「A」評価は適切である。コロナ禍でも工夫した取組がなされていて結果がでている。	・人権・同和教育 ・学校行事企画
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「いじめを受けていない、いじめをしていない、いじめを見逃していない」という回答が95%以上 ○「いじめ」の認知を5件以下	・「いじめ」に関する定期的な指導と喚起を促し、予防と撲滅を図る。 ・「情報リテラシー」についての知識を高め、SNSの危険性への意識を高めさせる。	・教育相談やアンケート等を通し、いじめの早期発見、早期指導に努めている。 ・全校集会でSNSの危険性について指導を行った。また保護者へもSNSの危険性のお便りを出す予定である。	B	・職員のアナテナを高め、いじめの予防と早期指導に努めた結果、「いじめを受けていない、いじめをしていない、いじめを見逃していない」という生徒の回答が93.9%であった。 ・全校集会や生徒指導だより、教育講演会などを通して、SNSの危険性について、生徒・保護者への啓発を行った。	A	・いじめアンケートの結果を見るとよく未然防止に努められている。 ・具体的な取組がなされ、高い数値目標もほぼ達成されている。	A	・生徒指導 ・教育相談
●健康・体づくり	○「おもてなしの精神」に基づいた、きちんとした挨拶と毎日の丁寧な掃除	・「挨拶がすすんでできている」の項目の好意的な評価が95%以上 ・「掃除を時間いっぱい丁寧に行っている」の項目で好意的な評価が85%以上	・挨拶の目的と意味を知らせ、場に応じた挨拶の仕方を指導する。 ・「掃除では、年度初めに掃除の仕方を身につかせ、継続的に指導を行う。	A	・生徒会主催の朝の挨拶運動により、生徒への意識づけができていく。継続して取り組む。 ・委員会主催の掃除徹底月間や無言掃除アンケートの実施、集計結果の周知を行うなど、これらを通し、「毎日の丁寧な掃除」の意識づけを行っている。継続的に指導を行っていく。	A	・生徒会主催の朝の挨拶運動は継続して行っている。「挨拶がすすんでできている」生徒は93.2%であった。 ・委員会主催の掃除徹底月間や無言掃除アンケートの実施、集計結果の周知を行うなど、これらを通し、「毎日の丁寧な掃除」の意識づけを行っている。継続的に指導を行っていく。	A	・挨拶がすすんでできている生徒が93.9%と高く、「A」評価でよい。 ・生徒と職員アンケートの結果は3点中だが、保護者のアンケート結果が2点中というものが少しになる。	・環境美化 ・生徒会
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒100%	・給食へ感謝する気持ちをもたせる。 ・必要な栄養について知識を深め、自己の健康管理を意識させていく。	・給食に用いられている食材や給食の調理方法、料理に関する知識を、毎日給食時に放送で読み上げている。継続して取り組む。 ・給食の時間を活用した食に関する指導を7回実施した。継続して取り組む。	A	・給食週間には、給食の歴史や給食に関連する情報の放送を行った。給食の始まった理由や地域の郷土料理、メニューについての話などを委員会でも考え放送することで生徒目線で興味をそそる内容になった。 ・給食の時間を活用した食に関する指導を行った結果、「健康に食事は大切である」と考える生徒は96.3%であった。	A	・給食週間には、給食の歴史や給食に関連する情報の放送を行った。給食の始まった理由や地域の郷土料理、メニューについての話などを委員会でも考え放送することで生徒目線で興味をそそる内容になった。 ・給食の時間を活用した食に関する指導を行った結果、「健康に食事は大切である」と考える生徒は96.3%であった。	A	・生徒の食に対する意識が高い。「A」評価でよい。 ・数値目標の100%は困難な目標である。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○望ましい生活習慣の形成	○時間を意識して、規律ある生活をおくれる生徒85%以上	・家庭と連携し、「早寝、早起き、朝ごはん」に積極的に取り組む。 ・ノーテレビ・ノーゲームデーとの取組と連携し、家庭での時間の使い方の改善を図る。	B	・11月に「早寝、早起き、朝ごはん」の呼びかけとアンケートを行った。今後は、家庭との連携を強化したい。 ・ノーテレビ・ノーゲームデーは、放送で呼びかけを行い、方法を工夫しながら継続して取り組んでいる。月初めの3日間のうちから実施日を選ぶ選択制にしてから実施率が上がっている。継続して取り組む。	A	・朝食の摂取率は高い状態である。各学年の生活調査表を見ると早寝・早起きには課題があるが、「時間を意識して、規律ある生活をおくっている」生徒は87.0%であった。 ・ノーテレビ・ノーゲームデーは呼びかけや実施方法の工夫により実施率は高い水準で維持できている。	A	・規律ある生活を送っている生徒が87%と高い、「A」評価でよい。 ・家庭での状況把握は大変だが、よく達成できている。	・養護教諭 ・学年主任
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定 ・部活動休業日の設定 ・効果的・効率的な業務推進	・定時退勤日、部活動休業日の設定はできている。 ・業務の分担の効率化や研修の精選を行い、長期休業中の時間外勤務時間の削減と年休取得率のアップができた。今後は、アンケート集計など業務のICT化を図っていく。	B	・定時退勤日、部活動休業日の設定はできている。 ・業務の分担の効率化や研修の精選を行い、長期休業中の時間外勤務時間の削減と年休取得率のアップができた。今後は、アンケート集計など業務のICT化を図っていく。	B	・定時退勤日と部活動休業日を適切に設定し、業務の分担の効率化や研修の精選、業務のICT化なども行った。一定の成果は上がっているものの、時間外勤務時間の削減は大きくは進まなかった。	B	・部活動の休業日を適切に設定されている。これからも時間外勤務削減は課題であろう。 ・もう減らせないとこまで来ているのではないかと。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○支援を要する全ての生徒に対して、個別の支援計画を作成、活用 ○UDを意識した教室環境や板書の仕方等、生徒の状況に配慮した指導の在り方等の理解	・校内特別支援委員会やケース会議を適宜開催し、学校全体での支援体制を構築する。	B	・支援に必要な生徒（支援学級・通級・発達障害等）の支援計画を作成した。その他各学級で気になる生徒の状況把握とケース会議を引き続き行い、支援の方向性を共通理解していきたい。	A	・教室の環境整備が整えられ、生徒は落ち着いて授業に取り組むことができた。 ・特別支援教育に理解を深め、特別支援の必要な生徒へ適切な対応を行っている」と答えた教師が88.0%で、学年を中心としたチームで支援を行った。	A	・チームによる組織での対応は「A」に値する。 ・アンケート結果から職員の高い意識を感じた。	
◎キャリア教育の充実	◎将来の夢や進路について、自分の考えを持つことができる生徒の育成	◎将来の夢や進路について、自分の考えを持つことができる生徒80%以上	・職業調べや、職業体験、高校調べなどを通して、自分の将来について考えさせる。	A	・2年生では職場インタビューを行った。3年生で高校調べや体験入学を通して、将来について考える機会をもった。今後、1年生は職業調べを、2年生は高校調べを行い、自分の将来について考えさせる予定である。	A	・冬休み明けに、1年生は職業調べ、2年生は高校調べを行い、3年生は高校入試を受けている。進路やキャリア教育について意識が高まり、「将来の夢や進路について考えを持っている」生徒は74.2%であった。	B	・3年間を見通したキャリア教育の充実が図られている。 ・目標80%に近い数値は出ているが、キャリア教育の充実を図る教師の自己評価が下がっているのが気になる。	・進路指導

5 総合評価・次年度への展望	●・・・果共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育 ・学力向上では、西部型授業が定着し、さらに課題解決に向け意図的・計画的に「書く活動」「話し合う活動」等を仕組んだ結果、思考力・判断力・表現力が向上した。家庭学習習慣の定着にまだ課題があり、取組を強化する必要がある。 ・不登校対策では、家庭や関係職員、関係機関との連携を密にとり、誰か・どこかにつながりをもつことで学校との関係を保持し、その結果不登校を改善することができた。情報の引継ぎを丁寧に行い、継続して支援を行う必要がある。 ・いじめ対策では、観察やアンケート等で覚知したあとの対応を、迅速かつ丁寧に行うことができた。SNS上でのいじめやコロナいじめなど様々ないじめ問題への対応が必要だが、今後は特にSNSを介したいじめの予防に力を注ぐ必要がある。 ・ICT利活用教育では、授業やオンライン学習でのタブレット端末の活用を進めることができた。しかし、ネットワーク環境に課題があり、授業での活用が大きくは進まなかった。今後は多方面に働きかけ、ネットワーク環境の改善をする必要がある。
----------------	--